



写真 17 S B02 完掘 (直上より)



写真 18 S B02 礎石 b iv 設置状況 (東より)



写真 19 S B02 b 3 検出状況 (北東より)



写真 20 S B02 剥片状石片検出状況 (直上より)



写真 21 S B02 基壇断面(1) (南西より)

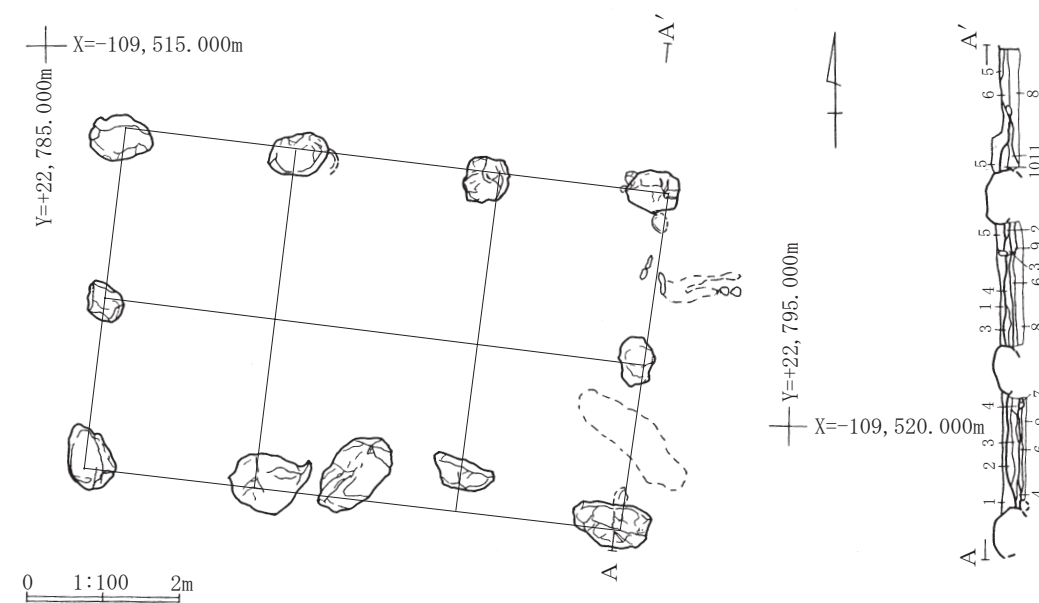


写真 22 礎石 x 7 現況 (東より)

③ S B03 礎石建物跡

位置と現況 S B03 礎石建物跡は S F04 南辺築地堀跡の中央に設けられている。S F04 南辺築地堀跡に土を盛って農作業用道路として利用されているため、S B01 礎石建物跡や S B02 礎石建物跡と違って、基壇跡と礎石はすべて地中にある。なお、S B03 礎石建物跡と S F04 南辺築地堀跡に土が盛られたのは平成元年（1990）であるが、第 1 次発掘調査報告書に掲載された写真を見ると、第 1 次調査の時点で S F04 南辺築地堀跡はすでに畔として利用されていたようで、S B03 礎石建物跡の礎石は一部を除いて当時の表土を掘削しなければ検出できなかったようである。**調査履歴** S B03 礎石建物跡を対象とした調査は、第 1・9 次調査である。第 1 次調査は、礎石の周囲と基壇の中央にトレンチを設け、礎石の配置を確認したものである。第 9 次調査は、第 1 次調査で検出された礎石の正確

な位置を確認すること、基壇の構造の検討を行うために実施したものである。**基壇の構造** 基壇跡は、農道の盛土とその下のかつての畔だった表土を除去して礎石を検出しながら確認したが、S B01・02 礎石建物跡のような明確な高まりはもちろん、外装となるような石列も検出されていない。礎石の a 列および iv 列にサブトレンチを設定して基壇跡を断ち割ったところ、その北側では旧表土の IV 層を除去した後に、南側では旧表土の上に、それぞれ土を盛って基壇としている。積み土は地山起源土の黄褐色土を含む黒褐色土の単層（2 層）で、礎石と根石が動かないように、その周りに敷き詰められた土の高まりといった様相を呈しており、S B01・02 礎石建物跡に比べればかなり低く、高いところでも 15cm ほどしかない。そのため基壇の明確な端部はなく、基壇の大きさも不明である。なお、2 層上面の一部に現地性の焼土がある。なお、後述のように S F03 築地堀跡は S B03 礎石建物跡の基壇の上面に載っていた可能性がある。**礎石** 分析は実施していないが、概観は S B01・02 礎石建物跡の礎石と変わらないので、同じ産地の角閃石安山岩と推測される。扁平で、平面は楕円形を呈するものが多い。大きさは、最大のものが 110×82cm、最小のものが 60×59cm と、S B01・02 礎石建物跡と同じようにばらつきがある。上面の標高は 33.99～34.11m で、現状で 12cm の標高差がある。上面にはやはり S B01・02 礎石建物跡のものと同じように剥離痕がある。**礎石の設置** IV 層（旧表土）の上面に礎石を直接据えるもの（b 4）、IV 層を除去して V 層を皿状に掘り窪めてそこに根石を置き、その上に礎石が据えるもの（a 4）がる。前者は、礎石を据えた後ただちに周りに 2 層を敷きつめているが、後者はその前に皿状に掘り窪んだ部分に暗褐色土（4・9・14 層）を充填する行程が加わっている。**柱間** S B01・02 礎石建物跡の礎石と同じく、柱が据えられていた正確な位置は不明だが、おおむね中央付近とすれば、平側の中央が 2.70m（9 尺）、その左右が 2.25m（7 尺 5 寸）、妻側はともに 2.25m（7 尺 5 寸）である。したがって、S B03 礎石建物跡は、桁行 3 間 7.20m（24 尺）・梁間 2 間 4.50m（15 尺）の側柱建物と復元され、柱の配置から導き出されたその建物の方向は N-96°-E で、S F03 築地堀跡の方向と一致する。**軒の出** 基壇周辺で雨落溝は検出されなかったため、軒の出は不明である。



第 14 図 S B03(1)

土層注記 AB					
1	10YR3/2 黒褐色土	炭化物を少量含む	粘性あり	しまりややあり	新しい盛り土か
2	10YR3/3 暗褐色土	地山ブロックが5%混入	炭化物を少量含む	しまりややあり	基壇土
3	10YR5/4 にぶい黄褐色土	暗褐色土が40%混入	焼土粒・炭化物を含む	しまりややあり	基壇土
4	10YR3/3 暗褐色土	地山塊が5%混入	炭化物を少量含む	しまりややあり	基壇土
5	10YR4/3 にぶい黄褐色土	炭化物を少量含む	しまりややあり		水田耕作土か
6	Ⅳ層				
7	10YR4/2 灰黄褐色土	地山粒が少量混入	炭化物を少量含む	しまりあり	礎石の据え方
8	Ⅴ層				
9	10YR3/3 暗褐色土	地山ブロックが少量混入	炭化物を少量含む	しまりややあり	基壇土
10	10YR3/2 黒褐色土	焼土粒・炭化物を含む	しまりややあり		基壇土
11	10YR3/4 暗褐色土	焼土粒・炭化物を含む	しまりややあり		基壇土



写真 23 S B03 完掘（直上より）



写真 24 S B03 基壇断面（北東より）

（2）築地塀跡

S B01・02 礎石建物跡の周りには土手状の高まりが口字形に廻っている（南辺もかつては他の3辺と同じ状況だったが、1990年代になって農道として利用するために土盛りされている）。内側・外側ともに水田として利用されている（た）が、築地塀跡の高まり部分は積極的な利用はなされていなかったようである。少なくとも第1次調査が実施された昭和33年（1958）の時点では芝が貼られていたようであるから、それ以前からS B01・02 礎石建物跡と同じように貴重な遺構だとの認識があり、保護されていたのだろう。S F01～04築地塀跡を対象とした調査は、第1・2・4・6・8～14次調査である。そのうち、第1・2・4・8次調査では断ち割りが実施されており、それ以外の調査では遺構を露出させただけで断ち割りは行っていない。なお、築地塀跡については、第1次調査で土塁とされて以来、第6次調査まではその見解が踏襲されてきた。しかし、第8次以降の調査では築地塀跡と修正されている。その根拠は、①場所ごとに層厚に違いがあるが、版築によって土が積み上げられていること、②土の高まりの基底部は1.60m以内に収まっていること、③約3mおきに縦方向の筋が検出され、この前後で土の積み上げ方が微妙に違っていること、④③の筋の周辺から柱穴が検出されることが多いことである。



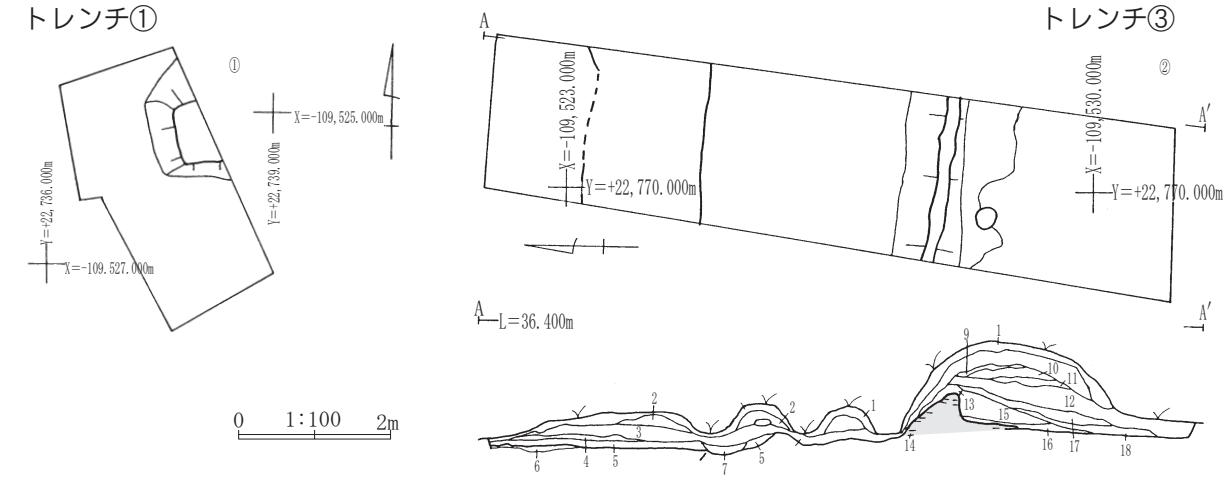
写真 25 S F04 現況（南より）

①S F01 築地塀跡

S F01 築地塀跡は北辺築地塀跡で、現状では東西方向の土手状の高まりが3条平行して延びているが、築地塀跡となるのは最も南側のものである。7つのトレンチを設定して調査した。東西両端のいずれも検出できたが、削平のためS F02・04 築地塀跡との接続部分を確認することはできなかった。ただこれらのトレンチで検出した築地塀跡を結んだラインと、S F02・04 築地塀跡のラインの延長の交点から推定される長さは116.90mで4辺の中で最も長い。方向はN—94° —Eで、S B01 礎石建物跡の方向（N—6° —E）とほぼ直交する。

築地塀跡の上部は崩壊しており、0.30～0.65mが残存し、基底幅は1.20～1.60mを測る。黄褐色土が混入する褐色土を4～6cmの厚さで縞状に積み上げて構築されている。⑥トレンチでは積み手の違いを検出しているが、ここではこれを境にして積み土の状況が異なっている。前述のように積み土は褐色土を主体としているが、そうしたものの隣に黄褐色土のみで積み上げられた単位が確認されている。なお、築地塀跡の周辺で柱穴は確認されていない。また、築地塀跡の外側を断ち割ったところ、灰黄褐色土が13～15cmの厚さで水平に堆積しているのを確認している。非常にしまりがあり、地山とも異なる色調で、場所によっては数層に細分できる箇所もあることから、築地塀構築前の整地層と考えられる。

築地塀跡のほぼ中央、西端から56.60mと東端から56.20mの間、4.20mが開口している。柱穴や礎石が据えられていた痕跡が検出されなかったため、この部分に建物はなかったようだが、すぐ外側にあるS D01 堀跡も同じ箇所が途切れているため、築地塀の内部と外部を行き来できるように人為的に途切れさせたものと考えられる。



土層注記 A				
1	I層			
2	10YR4/3 にぶい黄褐色土	炭化物を含む	しまりなし	
3	Ⅱ層			
4	Ⅱ層	3層より鉄分が多い		
5	10YR4/3 にぶい黄褐色土	炭化物を少量含む	しまりややあり	
6	10YR4/3 にぶい黄褐色土	黒褐色土がブロック状に20%、地山ブロックが30%混入	炭化物を含む	しまりあり
7	攪乱(水田の導水溝か)			
8	10YR4/3 にぶい黄褐色土	明黄褐色砂が200%混入	炭化物を少量含む	しまりなし
9	10YR3/3 暗褐色土	地山ブロックが微量混入	炭化物を含む	しまりなし
10	10YR4/3 にぶい黄褐色土	地山ブロックが10%混入	炭化物を少量含む	しまりなし
11	10YR3/3 暗褐色土	地山ブロックが微量混入	炭化物を含む	しまりなし
12	10YR5/4 にぶい黄褐色土	地山ブロックが5%混入	炭化物を少量含む	しまりなし
13	Ⅳ層			
14	10YR5/4 にぶい黄褐色土	地山ブロックが少量混入	下部に炭化物が集中	しまりなし
15	10YR5/4 にぶい黄褐色土	炭化物を含む	しまりややあり	粘性あり
16	10YR5/4 にぶい黄褐色土	地山ブロックが少量混入	炭化物を少量含む	しまりなし
17	10YR3/3 暗褐色土	地山ブロックが少量混入	炭化物を少量含む	しまりなし

築地の崩壊土

築地の崩壊土

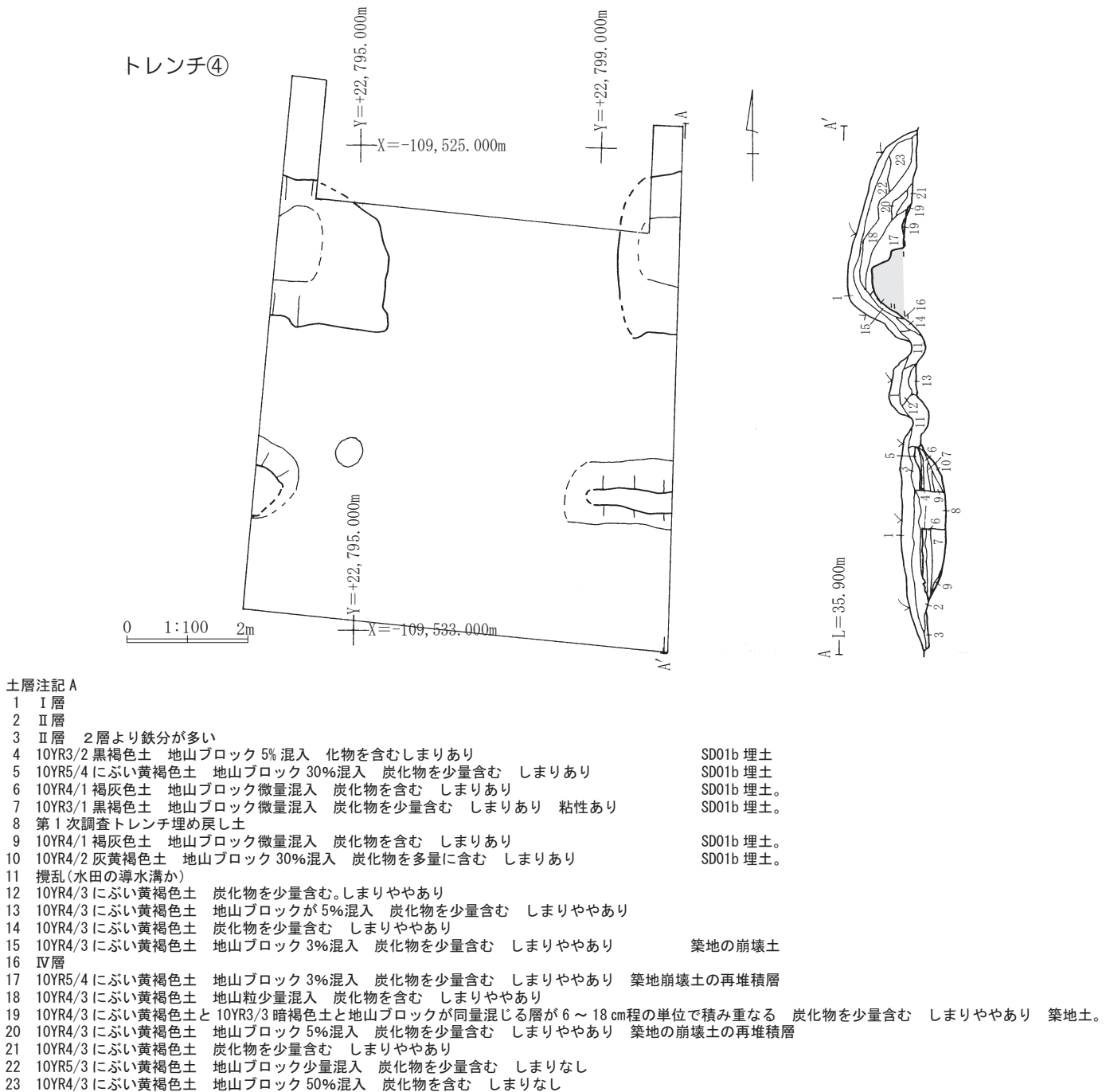
第 15 図 S F01 (1)



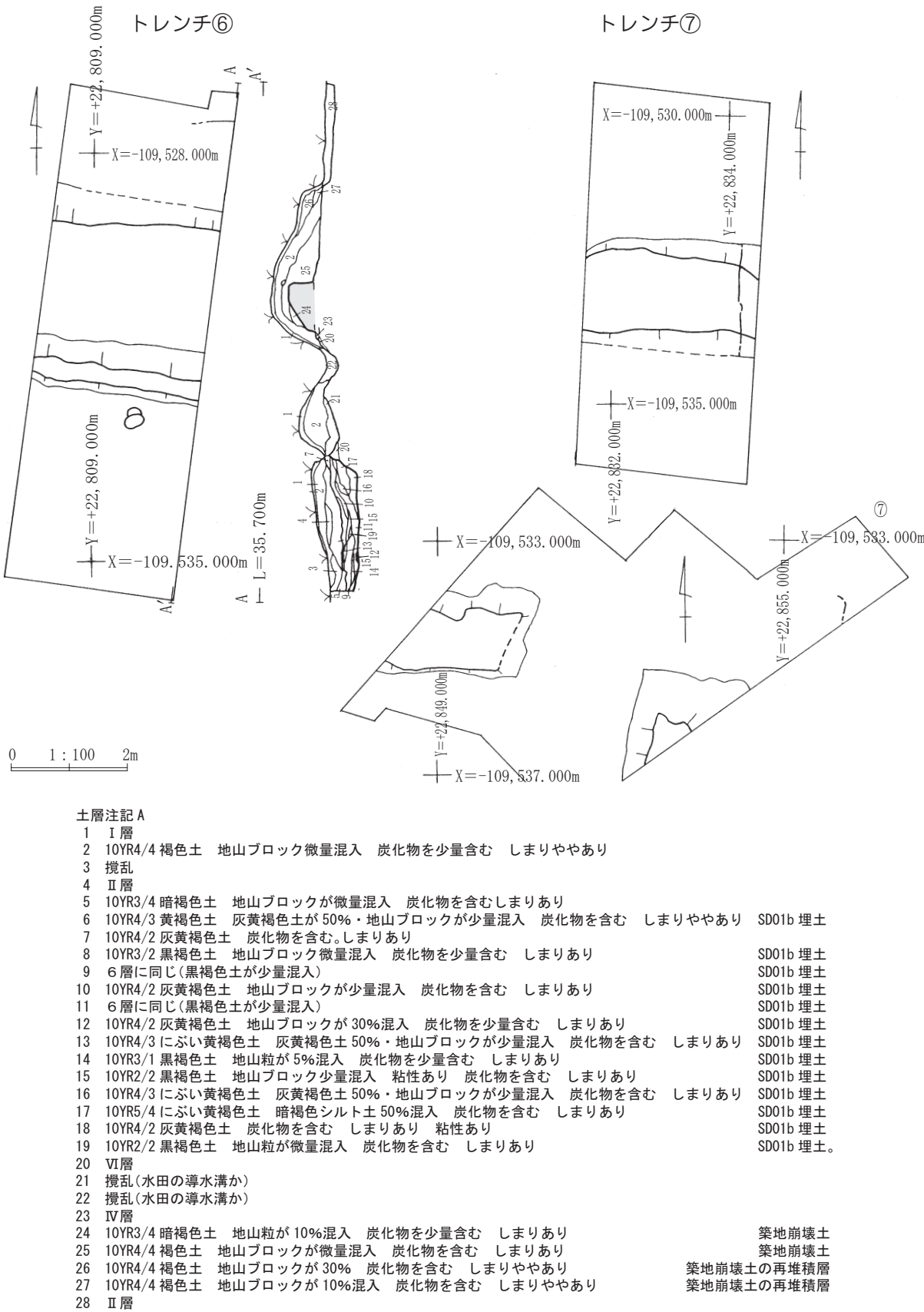
写真 26 S F01 トレンチ①完掘（南西より）



写真 27 S F01 トレンチ③完掘（南より）



第 16 図 S F01(2)



第 17 図 S F01(3)